



令和2年度 地方創生推進交付金事業
鴨川市地域スポーツコミッション 活動報告



一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川

2020 年度上半期レポート

(2020 年 4 月～2020 年 9 月)

2020 年 10 月 1 日
一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川

www.wellspo.jp



01 2018・2019 年度の振り返り

1. 地域スポーツコミッションの創設

2018 年度、鴨川市により「スポーツを通じた地域振興基本計画」が策定され、その中で鴨川版地域スポーツコミッションの必要性について言及された。

2019 年 3 月 22 日、千葉県内では 5 例目となる地域スポーツコミッション「一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川」が設立された。

2. ビジョン

スポーツを通じた地域振興基本計画、及び地域スポーツコミッションが目指すべきビジョンとして「ウェルネスシティ鴨川」の実現を掲げた。

キーワードとなる「ウェルネス(wellness)」の定義として

- ① 人々の心身の健康
- ② 地域の健康・幸福

の 2 つを考え、「ウェルネスシティ鴨川」とは「スポーツが日常・文化となった市民生活を基盤としてスポーツビジネスが持続性をもって成立する」都市である。その実現に向けて

- ① 新産業と雇用の創出
- ② 健康で質の高い生活の実現

を目標に掲げ、「ウェルネスシティ鴨川」の実現により

- ① 移住促進・人口流出抑制
- ② 「鴨川」ブランドの創出
- ③ 持続可能な地域社会

を最終的に達成したいと考えている。

3. 地方創生推進交付金事業

2019 年度、鴨川市より地方創生推進交付金事業等を活用して、主に次の事業を展開した。

①大会・合宿誘致

スポーツを推進する地域としてのイメージアップのため、スポーツ施設などを活用した、各種競技のトップレベルの大会・合宿を誘致・実施支援し、鴨川市ならではの付加価値醸成に注力した。

○自転車ロードレース 2019.8.24(土)～25(日) 第 4 回 JBCF ブルークリテリウム in 鴨川
鴨川サイクルまつり 2019 企画・併催

○サーフィン振興 2019.4.19(金)～21(日) 全日本級別サーフィン選手権大会
2019.6.2(日) 鴨川シティカップ 2019

2019.10.5(土)～6(日) JPBA ツアー第 5 戦 WAVE CITY KAMOGAWA PRO

○ブラインドサッカー 2019.10.5(土)～6(日) ブラインドサッカー女子日本代表 鴨川キャンプ

○東京五輪事前キャンプ 女子サッカー欧州代表チームの実施が内定

東京五輪延期により、交渉を継続中（2021 年の実施も内定）

②集客システム構築

- 施設利活用 鴨川市総合運動施設の将来像・整備計画の立案支援
指定管理等、民間参入に向けた計画の立案支援
先進地視察（2019.7.3(水) 掛川市体育協会）
- マリンスポーツ ビーチアクティビティ・プログラムのモニタリング
- サイクルツーリズム レンタサイクルサービス（e-bike・スポーツバイク 計36台）
サイクルモニターツアー実施（2019年11・12・2月）
ロゲイニングウェブアプリ「Rogaining Hunter」（ロゲハン）開発
- 農林業×スポーツ スポーツを通じた地域課題の解決（スポーツ×草刈）
2019.10.26(土) JTB 地球いきいきプロジェクト
2019.11.7(木) 草刈サミット 2019
- パラスポーツ 2019.12.22(日) ウェル KAMO X'MAS GAMES 2019 開催
- 地域ウェルネス推進 ウェル kamo 教室・キッズ 里の MUJI みんなみの里で定期開催
鴨川市文化体育館ロビーへのウェル kamo コーナー開設

③その他

- プロモーション ウェブサイト開設 <https://wellspo.jp>
公式 SNS Facebook *2020年度：Twitter/Instagram 追加
シーズナルパンフ 第1号 サイクル
法人案内パンフレット
- 人財育成 公認体育施設管理士、公認トレーニング指導士 取得
MEIRDA XBASE にて自転車メンテナンス研修受講
- 地域おこし協力隊 2名の協力隊員とともに事業を展開（小野幸一氏、田中理菜氏）

4. 2020 年度以降への課題

- ①**想定外**を想定する必要性（台風、新型コロナウイルス）
- ②**収益事業と公益事業の分別による持続可能な収入のバランス**の実現
- ③**プログラム・商品の造成による収益事業**の確立
- ④総合運動施設の**指定管理者制度**導入の検討
- ⑤より積極的な**市民向けプロモーション**による認知度・理解度向上
- ⑥地域における**人財の発掘・登用、市内各種団体との連携**

02 2020 年度／実施事業

1. 地方創生推進交付金事業（最終年度）

①大会合宿誘致事業

- (1) 東京オリンピック・パラリンピック鴨川市対策推進本部と連携した国内外の競技団体等の大会・合宿等の誘致及び受け入れ
 - (2) 東京オリンピック・パラリンピック関連種目等の大会・合宿に関する受け入れ環境の整備
 - (3) 諸外国及び選手団等からの問い合わせへの語学対応
 - (4) 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、千葉県、及び関係競技団体からの情報収集、連携をもとにした合宿等の取組支援
 - (5) 市内の宿泊、トレーニング、医療等受入施設との連絡調整
 - (6) 外国及び選手団等による市内施設の視察・交渉の際の業務担当者及び通訳の同行
 - (7) 機運醸成のための市民向けパブリックビューイング、交流会等の企画及び実施
 - (8) 取組事項に関する東京オリンピック・パラリンピック鴨川市対策推進本部会議等への報告
- ※(2)～(8)について新型コロナウイルス感染拡大による大会延期により大幅縮小して実施予定

②集客システム構築事業

- (1) 市内の自然環境を生かしたヘルスツーリズムの推進
- (2) モニターツアー等によるスポーツを使った商品造成及び実証
- (3) 首都圏等へのスポーツを通じた誘客に向けたプロモーション活動
- (4) 指定管理者制度の活用に向けた専門事業者との連携・諸条件検討
- (5) 市民に向けたスポーツの定着化・日常化に向けた試行的取組
- (6) 先進的なスポーツ分野（ニュースポーツ）の検討
- (7) スポーツを生かした地域問題の解決に向けた活動
- (8) アンケート調査等の実施・分析
- (9) スポーツを通じた地域振興推進委員会及びプロジェクトチームとの連携

2. 地域おこし協力隊事業（2年度目）

スポーツによるまちづくり・地域活性化に寄与していただくべく、協力隊員と連携、事業推進する。

- (1) 小野 幸一 隊員（2019 年 6 月委嘱）：サイクル・アウトドアツーリズムの開発・推進
- (2) 玉木 涼佑 隊員（2020 年 6 月委嘱）：ウェル kamo（地域ウェルネス推進事業）の推進

3. スポーツ庁 スポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業（単年度）

テーマ：サイクルツーリズム推進

- (1) 房総サイクルサミットの開催による広域連携
- (2) サイクルモニターツアーの企画・実施（国内向け・企業団体向け・インバウンド）
- (3) サイクル・アウトドアツーリズム先進地視察
- (4) 通年型サイクルツアー・プログラムの商品造成

03 2020 年度／4 つのフェーズ

新型コロナウイルス感染拡大により、状況が一変した 2020 年度は年度初めに、年度を 4 つのフェーズに分けて事業をスタートした。

Phase 1 4～5 月

緊急事態宣言 | 入念な企画・計画 オンライン対応

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受け、(一社)ウェルネススポーツ鴨川もスタッフにテレワークを推奨し、外部向け事業実施を中止し、企画・計画に注力した。オンラインに対応した事業について試行を行う。

- 在宅生活を送る親子向け・高校生向けのオンライントレーニングの実施
- 文化体育館のロビーに体組成などの高機能測定コーナーやミニアトラクションコーナーの整備を計画

Phase 2 6～8 月

外出自粛緩和 | 関係者・ローカルを対象とした事業実施

緊急事態宣言の解除にともない、徐々に通常業務形態に復帰させながら、関係者やローカル（市民）を対象とし各事業の実施を行う。本格的な事業実施に向けての関係者との直接交渉・調整を再開する。

- ワーケーション事業の調査・研究・モニタリング
- 「鴨川令徳ビーチコート」(同校内)との連携・活用、ビーチスポーツ大会・合宿誘致
- 夏季合宿の受入れ

Phase 3 9～12 月

ウィズコロナ時代へ | 千葉県内・関東圏向けのツアー・プログラム実施

新型コロナウイルス禍が長期間継続することを前提とした、いわゆる「新しい生活様式」に対応した「3密」「接触」を回避する新しいイベント、ツアー・プログラムの企画・実施を行う。

- サイクルモニターツアーの実施
- ロゲイニングイベント（オープンエアー・期間分散型）
- 草刈サミット 2020

Phase 4 1～3 月

新しい日常 | 全国・在日外国人に対象を拡大しツアー・プログラム実施

社会的な規制緩和を前提とした、対象を国内・在日外国人に拡大したツアー・プログラムの実施を行い、(一社)ウェルネススポーツ鴨川の自走に資する収益事業の確立を目指す。

- 全国・在日外国人向けのサイクルツアー・プログラムの展開
- 房総サイクルサミット 2020（広域連携）
- 通年型サイクルツアー・プログラムの商品造成・販売開始

04 2020 年度／上半期事業報告

1－1. 大会・合宿誘致

①2020 東京オリパラ海外女子サッカー代表チーム事前キャンプ誘致

新型コロナウイルス感染拡大により、2021 年に開催が延期された東京オリンピック・パラリンピックにおける海外女子サッカー代表チームの事前キャンプ誘致を継続している。内定した当該チームからは 2021 年夏においても鴨川市をキャンプ地としたい意向は受けている。

今後は事前キャンプの誘致・準備とともに、五輪後のレガシーとして、当該国・都市と鴨川市との官民交流の醸成を目指して活動していく。

②マリン・ビーチスポーツ大会・合宿誘致

サーフィンやボディボードをはじめとするマリンスポーツに加え、2020 年 5 月に鴨川令徳高等学校内に完成した「鴨川令徳ビーチコート」を活用し、同校と連携して、ビーチスポーツの大会・合宿誘致、および地域への理解醸成のための取り組みを展開している。

ビーチコートの周辺整備（競技備品、簡易防球ネット、簡易物置の設置など）による利便性向上

(1)合宿誘致

男子ビーチサッカーチーム（関東リーグ所属）B S C 川崎合宿（2020.9.12～13・10.17～18）

(2)大会誘致

JFA 第 15 回全日本ビーチサッカー大会 関東大会（2020.7.25～26 関係者約 200 名※無観客試合）

2020 関東ビーチサッカーリーグ（2020.10.18）

2020 関東女子ビーチサッカーリーグ（2020.9.6・10.11）

(3)地域への理解醸成

地元女子ビーチサッカーチーム「SONNE Kamogawa B.S.」と連携しビーチサッカー体験会（毎週月曜）

ゾンネ鴨川令徳カップ（2020.11.29）

ビーチテニス体験会（2020.8.27 鴨川令徳高等学校主催）

③その他の大会・合宿誘致

(1)ラグビージュニアスクール合宿（2020.8.8～10）：今後も継続開催の意向

(2)女子ラグビー日本代表（15 人制）合宿：現在調整中

(3)全日本女子硬式クラブ野球選手権大会（2020.10.10～11）

1－2. 集客システム構築／施設利活用・地域スポーツ文化創造

①総合運動施設の将来像および指定管理者制度導入に向けた検討

総合運動施設の指定管理者制度導入に向け、スポーツ振興課と連携し、以下の取り組みを行っている。

- (1)指定管理者制度導入後の現行業務の振り分けのシミュレーション
- (2)民間事業者のサウンディング調査
- (3)文化体育館ロビーのイメージアップ（ウェル kamo コーナーの設置・充実）

②マリン・ビーチスポーツ

日本サーフィン発祥の地でもある鴨川は、サーフィン、ボディボード、海水浴などマリンスポーツのメッカでもあるが、海洋に加えて、日本の渚百選にも選ばれている前原横渚海岸をはじめとする砂浜という地域資源のブラッシュアップを図るべく、ビーチスポーツ・アクティビティの振興に注力している。

- (1)（大会・合宿誘致事業で述べた）**ビーチスポーツ大会・合宿**の誘致 ▶ 6 ページ参照
- (2)鴨川令徳高等学校、地元女子ビーチサッカーチーム「SONNE Kamogawa B.S.」と連携しての、**ビーチスポーツ体験会**、ジュニア世代向けの**マルチビーチスポーツ教室**の展開による市民の理解醸成
- (3)市所有のサーフィン備品（ボード、スーツ）を活用し、鴨川サーフィン倶楽部と連携した**団体向けサーフィン体験プログラム**の展開

③ウェル kamo（地域ウェルネス推進事業）

ウェルネスシティ鴨川の実現において、不可欠な地域住民の心身の健康を増進すべく、ジュニア世代（未来世代）・働き盛り世代・シニア世代 の3世代に対して、健康づくりへの意識醸成および改善、スポーツ実施率向上を図る事業を展開している。

(1)ジュニア世代（未来世代）

マルチビーチスポーツ教室の開設

スポーツ少年団・青少年クラブチーム向けの運動測定会・アドバイス（**ウェル kamo スクール**）の実施

(2)働き盛り世代

鴨川市商工会理事会にて健康測定会体験・P R（2020.6.18）

市内企業での健康測定会実施・健康づくりへのアドバイス

ウェル kamo チャレンジの実施：第1回 自転車×ダイエット 第2回 美姿勢

(3)シニア世代

みんなみの里・各地区体育館での健康教室の実施 ※新型コロナウイルスの状況を考慮しながら今後実施

草刈など**農作業の運動効果の検証実験**（国際武道大学等の学術機関と連携）

第3回草刈サミット（2020.11.6 平塚地区房田棚田）

ユニバーサルスポーツ（パラスポーツ）の普及・市民アクティビティへの活用

④先進地視察

(1)熊本県菊陽町・エボレパーク（2020.9.20～23）

地元出身のビーチサッカー日本代表選手による民間ベースで開設・運営のビーチコートの取り組み

(2)千葉県長柄町・リソルの森（2020.9.25）：

国内外チーム・アスリートの合宿にも活用されている、宿泊・トレーニング・飲食・温浴など多種多様な施設が整備されたウェルネスステイの先駆地

⑤広報・プロモーション

（一社）ウェルネススポーツ鴨川が存在、取り組みをまずは市民に周知すべく、さまざまな媒体を活用して、積極的な情報発信を行っている。

(1)公式ウェブサイト

(2)SNS（Facebook・Twitter・Instagram）

(3)メールマガジンの定期配信（毎月15日前後）

(4)シーズナルパンフの発行（第2号 マリンビーチアクティビティ 第3号 体験プログラム）

(5)ウェル kamo 通信の発行（年3回・主に学校向け）

(6)広報かもがわへの掲載

(7)KamoZine への掲載

⑥人財育成

(1)当法人・渡辺淳一代表（元城西国際大学観光学部教授）による**観光まちづくりワークショップ**の開催
当法人職員のほか、鴨川市スポーツ振興課、商工観光課、スポーツによる地域活性化庁内プロジェクトチームメンバー、鴨川観光プラットフォーム(株)職員が受講

2. 地域おこし協力隊事業

スポーツによるまちづくり・地域活性化に寄与していただくべく、協力隊員と連携、事業推進している。
さらに協力隊員任期後の定住に向けたサポートを行う。

①小野幸一隊員（2019.6 委嘱）

自身のサイクルスポーツやサッカー指導経験、農業、鍼灸師資格、狩猟免許などを活かした取り組みを推進している。

(1)ロゲイニングイベント企画・実施への協力

(2)サイクルツアー・プログラム商品造成への協力

(3)レンタサイクルの整備への協力

(4)大会・合宿誘致・実施における協力

(5)草刈サミット開催への協力

(6)ウェル kamo 事業への協力

②玉木涼佑隊員（2020.6 委嘱）

アスレチックトレーナー（AT）資格や自身のハンドボール等のスポーツ経験を活かし、ジュニア世代・働き盛り世代・シニア世代に向けた、それぞれの健康づくり事業の企画・運営に協力している。

- (1)ジュニア世代向け「ウェル kamo スクール」「マルチビーチスポーツ教室」の企画・運営への協力
- (2)働き盛り世代向け「ウェル kamo BIZ」（企業・団体へ出張しての健康測定会・アドバイス）への協力
- (3)シニア世代向け「ウェル kamo 教室」の企画・運営への協力
- (4)オンライントレーニングの企画・運営への協力
- (5)大会・合宿誘致・実施における協力
- (6)草刈サミット開催への協力

3. スポーツ庁 スポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業

今年度新たに単年度事業として採択された「スポーツ庁 スポーツによるまちづくり・地域活性化活動支援事業」を活用してのサイクルツーリズムのさらなる深化、今後の当法人の収益源の一つとしての商品造成を図っている。

①房総サイクルサミット 2020（2021.1.30～31）

鴨川市周辺地域や県内、隣県のサイクルツーリズム事業に取り組む官民の団体を集め、各々のビジョンやプロジェクトを共有し、今後、広域連携をしながらのサイクルツーリズム推進の端緒とする。

- (1)(一社)ウェルネススポーツ鴨川によるサイクルツアー・プログラムの体験
- (2)各参加団体のPRブース
- (3)各参加団体のビジョン・プロジェクトの発表
- (4)サイクルツーリズムに関するシンポジウム（基調講演・トークセッション）

②サイクルツーリズム推進

- (1)ロゲイニング(*)ウェブアプリ「Rogaining Hunter（ロゲハン）」を活用したロゲイニング企画

鴨川ロゲイニング 2020（2020.11.1～14）：with コロナに対応した期間分散型・アウトドアイベント

*ロゲイニング：地図情報を元に、制限時間内に設定された地点を巡り、獲得する得点を競うゲーム

- (2)民間事業者（宿泊施設等）と連携したレンタサイクルツアー商品造成
- (3)インバウンド向けツアー商品造成：e-bike モニターツアー（2020.10.17・12.6）
- (4)ワーケーション対応の商品造成

体験プログラム取材・情報収集、データベース更新（かもがわナビ）

旅行代理店・企業グループとの連携によるワーケーション商品造成・販売促進

他地域スポーツコミッション（主に都市部）との連携による集客

- (5)他地域・他自治体のサイクルツーリズム事業の企画・運営受託

③先進地視察

- (1)長野県飯山市・長野市・白馬村（2020.9.30～10.2）：

長野県・新潟県にまたがる9自治体が連携した信州いいやま観光局のアウトドアツーリズムの取り組み
長野県教育委員会・市町村・学校と連携したジュニア世代向けの健康づくり・運動能力向上の取り組み
白馬村における各種サイクルツアーの体験視察

05 今後の課題と展開

1. 重要なポイント

当法人が持続可能な組織として、活動を継続していくためには次のポイントが重要になると思料される。

- ①事業の分類・整理 → 公益事業 ・ 収益事業
- ②公益事業・収益事業の財源のバランス確保 → 行政との連携事業 ・ 自主事業収入
- ③ツアー・プログラム等の商品造成・販売促進 → 鴨川観光プラットフォーム等との販路拡大

2. 事業分類

①公益事業 財源 | 行政との連携事業・補助金・S I B（成果報酬型委託）

(1)総合運動施設の指定管理者制度の導入に関わる連携

(2)大会・合宿誘致

(3)ウェル kamo（地域ウェルネス推進事業） *

* 地域総合型スポーツクラブとの連携や、企業・団体からの会費収入による運営も想定する。

②収益事業 財源 | 自主事業収入

(1)サイクル・アウトドアツアー・プログラム商品販売 → 認定ガイド・地域との連携

(2)レンタサイクル

(3)サイクルツアー・プログラムの企画・実施サポート

(4)サーフィン体験プログラム

3. 鴨川版地域スポーツコミッションとしての独自性・差別化

①スポーツ・ウェルネス活動の「見える化」

スポーツやウェルネスに関わる活動は定性的評価（「健康になったような気がする」「体を動かして気持ち良かった」など）にとどまることが少なくないが、（一社）ウェルネススポーツ鴨川では、体組成計「InBody」をはじめとするさまざまな測定器、姿勢の画像診断、体活動の科学的検証などを通じて、身体の状態やスポーツ・ウェルネス活動を数値化・画像化することによる「見える化」を行い、定量的評価を加えることで、スポーツやウェルネス活動の効果をより具体的に実感でき、継続のモチベーションにつなげる。

ツアー・プログラム商品にも消費カロリーなどの数値を加えて案内することで、より説得力のあるウェルネス・スポーツ商品の見せ方にこだわっていく。

②スポーツでないスポーツのアプローチ

（一社）ウェルネススポーツ鴨川のメインターゲットは、アスリートや日常からスポーツに親しんでいる人たちではなく、スポーツに取り組んでいない層である。彼らのスポーツ実施率を向上させることで、地域のウェルネスを実現する。そのために「スポーツ」を前面に押し出さないアプローチが必要であり、「遊び」や「ゲーム」、あるいは一見スポーツとは思えない活動からスポーツに結びつける取り組みを展開する。

③スポーツによる地域課題解決

(一社)ウェルネススポーツ鴨川が挑戦するテーマの一つに、**スポーツによる地域課題解決**がある。

スポーツ実施率による地域住民の健康増進はもとより、「スポーツ草刈」に見られるように、これまでネガティブだった作業に**スポーツのもつ「楽しさ」**を加えることで、ポジティブな側面を加え、苦しみではなく、結果的に**楽しく地域課題を解決していく**取り組みを展開していく。

スポーツ庁長官に新たに就任した室伏広治氏も就任の所信表明で「スポーツ界にとどまらず、**社会の課題解決に貢献していく**ことが大切だと思っています。**スポーツを通じた健康増進、地域資源とスポーツをかけあわせた活性化**など、具現化に努めていきたい」と述べているように、政府の方針とも合致している。

4. 今後の展開 | 重点5事業

①総合運動施設の指定管理者制度の導入に向けたロードマップ策定

総合運動施設の指定管理移行（または民間参入）に向けた**ロードマップ**をスポーツ振興課とともに作成するとともに、同施設が目指すべき**将来像**を構想し、参入するのに適正な民間事業者を丁寧な**サウンディング調査**などから見極めていく。2021年度は指定管理移行に向けた具体的な準備作業となる。

②戦略的に種目をターゲットにした大会・合宿誘致

大会・合宿誘致についてはやみくもに行うのではなく、鴨川市の地域資源、総合運動施設の将来像などを考慮し、戦略的に種目をターゲットにしながら展開していくべきと考える。

地元女子サッカーチーム「オルカ鴨川FC」を踏まえた、女子サッカーをはじめとする**女子スポーツ**。マリン・ビーチ資源を活かした**マリン・ビーチスポーツ**。障がい者だけでなく、健常者も老若男女問わず楽しめ、近年だれも関わりやすいスポーツとして注目されている**ユニバーサルスポーツ（パラスポーツ）**といった、他の地域とは**差別化された特色あるカテゴリー**に思い切って絞り込んだ誘致活動を進めていく。

③通年型サイクル・アウトドアツアー・プログラムの商品造成・販売促進

2020年度の最大の目標の一つが、通年型・常設型のサイクル・アウトドアツアー・プログラムの商品造成、および販売促進である。この事業は(一社)ウェルネススポーツ鴨川にとって**自主事業収入源**ともなる。新型コロナウイルス禍の「with コロナ」時代における「新しい生活様式」で注目されている、**自転車やアウトドアアクティビティ**を鴨川市の有する豊かな自然のフィールドを活かして展開する。また、**ワーケーション**や**二地域居住**という新しい滞在形態にも対応し、環境負荷の低い地域活性化を推進したい。

④マリン・ビーチスポーツの振興

サーフィンをはじめとする鴨川市の誇るマリンスポーツに加え、砂浜を活かしたビーチスポーツ・アクティビティの振興に力を入れ、スポーツとエンターテインメント、観光、商業などが融合した**新たなビーチ文化**を鴨川市から提起していきたい。鴨川市をビーチ文化の先駆地に育て上げていく。

⑤地域ウェルネス推進

地域住民の心身の健康は結果として医療費や介護保険料などの削減につながるだけでなく、地域の生産性を高め、**健全な地域＝地域のウェルネス**を実現する基盤となる。

(一社)ウェルネススポーツ鴨川では、**ジュニア世代（未来世代）・働き盛り世代・シニア世代**の3世代に対して、それぞれアプローチし、スポーツの要素を活かしながら、行政・地域関係団体とも連携しながら地域ウェルネスを推進していく。

5. 2021年度以降の展望 | インナー政策の強化

2020年度までは大会・合宿誘致や集客システム構築といった、スポーツと地域資源を掛け合わせた地域活性化のアウトター政策（市外からの集客・利用者向上）に注力している。

アウトター政策に加えて、2021年度以降は「**ウェルネスシティ鴨川**」の実現に向け、地域住民の心身の健康、それによる地域の生産性向上、地域の幸福度・健全度の向上など、**インナー政策**を強化していきたい。地域住民や企業・団体、教育現場にとって、スポーツをより日常化させ、結果として**スポーツ実施率の向上、健康増進**を図っていく。**スポーツ×健康（ウェルネス）×教育**をキーワードとしたスポーツによるまちづくりの発展的な取り組みに高度化・深度化を図っていききたい。

スポーツにより地域が活き活きと輝く、**住んで楽しい、行って楽しいまちづくり**を推進していく。

重要な要素として、**食**や**ICT**も活用し、先進的な鴨川型の地方創生モデルを確立し、全国に提起していきたい。

アウトター政策

+

インナー政策

スポーツ × 健康 × 教育

+

食 × ICT

▼

ウェルネスシティ鴨川の実現
鴨川型の先駆的的地方創生モデル